



## 仏教壮年会連盟の「綱領」に立って

こう だ しょう ぞう  
幸 田 昌 三

仏教壮年会連盟は基幹運動の理念を実践すべく、阿弥陀如来のひかりの内に生きるなかまとして結集され、「全国仏教壮年会議」を発展的に継承し、「浄土真宗本願寺派 仏教壮年会連盟」という新たな組織として歩み始めました。

連盟化を機に定められた『仏教壮年会連盟綱領』にある、

われわれ仏教壮年は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す  
朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現をめざします。

こそが私たちの大きな願いであり、確かな指針であり、前進のための原動力で  
あります。ここに示された精神こそお互いに確認し、共有したいものです。

私たちが普段出会う人々は、どちらかといえば仏縁の薄い方が多いようです。  
その方たちに対して私たちは、人間関係の波立ちを防ぎ<sup>おだ</sup>穏やかさを保持しよう  
と、自分の主義主張をひかえ、集団生活を円満に送ろうとする心が優先しがち  
です。

これが現実かもしれませんが、阿弥陀如来の<sup>だいひ</sup>大悲のはたらきの内にありなが  
ら、気づくことが少なく、「念仏者であることの喜び」を忘れてしまい、長いも  
のに巻かれろ式に、波風を立てることを避けようとしているのではないでしょ  
うか。

真実に誠実に、そして正直に自分を振り返ってみるとき、残念ながらみ教え

の内にあることに気づかず、喜びとなって湧いてくることは少ないのですが、これからも自分の姿勢を整えて、あらゆる法座に足をはこび、聴聞ちようもんを続ける人生を歩んでいきたいものです。

### 《朋友とご遺徳を仰ぐ喜び》

ご門主さまは、教章制定についてのご親教の結びに、「大遠忌を機縁に、先人の方々が身をもって伝えてくださった親鸞聖人のおこころを深く受けとめ、浄土真宗のみ教えを混迷の時代を導く灯火ともしびとして高く掲げ、人々に広く伝えながら、ともに世の安穩あんのんをめざして歩みたい」と、私たちが今なすべきことについて、お示しくださっています。

私たちは、親鸞聖人のご遺徳しのを偲び、南無阿弥陀仏のみ教えが自分のいのちを支え、育ててくださっていることを深く味わってみる機縁にしなければ、大遠忌あに遇わせていただく意味が薄れます。仲間と共に法義を語り合う場を多く持ち、その活動が宗門の内外に広がっていくきっかけとなるように、念仏者として御恩報謝の生活を送らせていただきたいものです。

念仏者の生活とは、お念仏をよりどころとし、感謝の日々を送らせていただくことです。それは、同じお念仏の内に、親鸞聖人と同じ道を歩ませていただく〈喜び〉でもあります。その感動を朋友と共に分かち合うとき、大きな喜びのうねりとなっていくことであらうでしょう。

### 《心豊かに生きる社会の実現をめざします》

私たちの生活の場に「お念仏の花を咲かせる」ためには何が必要でしょうか。ご住職や寺族の方々と深い信頼関係を築き、和やかな内に法座・行事を遂行なごし、

護寺活動をすすめなくてはならないのは当然であります。お寺は、み教えを聴聞し味わうのに適した場であり、御同朋御同行<sup>おんどうぼうおんどうぎょう</sup>の世界であります。むなしく終わらぬ人生へのめざめの場であります。み教えはつねに「世のなか<sup>あんのん</sup> 安穩なれ」と発せられているのです。

人それぞれの生活の場で仏法をいただき、むなしいままに終わることのない日暮らしをさせていただくことが、安穩ということです。お互いを認め合うことのできる心豊かな社会こそが念仏者のめざす社会ではないでしょうか。

仏教壮年会連盟は、親鸞聖人 750 回大遠忌にあたり、仏壮会員相互の連携を図り更なる朋友の輪を拓げる機縁として、2011（平成 23）年 9 月 3 日（土）に「親鸞聖人 750 回大遠忌法要記念 第 20 回全国仏教壮年大会」を本願寺御影堂にて開催いたします。

仏教壮年会は、全員聞法<sup>もんぼう</sup>・全員伝道を掲げる宗門の基幹運動の中核<sup>にな</sup>を担い、「仏法ひろまれ」を合い言葉に、組織の拡大充実を図るべく、自分の身に感じたみ教えの素晴らしさ・喜びを一人でも多くの人に伝えることこそが大きな使命です。この大会は混迷する現代社会の隅々<sup>すみずみ</sup>に、浄土真宗のみ教えが強い根<sup>めぐ</sup>を張り巡らすことのできる大きなチャンスであると思います。全国より一人でも多くの人々が集い、念仏の声高らかに集う大会にしたいと念願しています。

（仏教壮年会連盟理事長）